

# “河川環境再生の手引き”について

第3回JRRN河川環境ミニ講座（2009. 5. 13）  
JRRN事務局

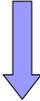
1) ガイドライン作成の目的

## ガイドライン作成の経緯



第4回世界水フォーラム（2006年3月にメキシコで開催）分科会提言概要

- 1) 河川環境の再生は、治水や利水と同じく、人類の存続に不可欠。
- 2) 河川環境管理に際しては流域を基本単位で考える。
- 3) アジアに相応しい河川環境再生の方法論を確立することが必要。
- 4) アジアの歴史・文化的土壌として人間活動と自然との調和がある。
- 5) 河川再生に関する優れた事例や専門情報を、実務者・研究者・生態学者・管理者・市民で共有する仕組みが不可欠。
- 6) 類似した自然・社会環境を持つアジアとして、河川再生の技術指針を共有することが緊急の課題。

【ARRN活動の柱】

アジアモンスーン地域の特性を踏まえた  
河川再生技術指針（ガイドライン）の作成

## ガイドライン作成の目的

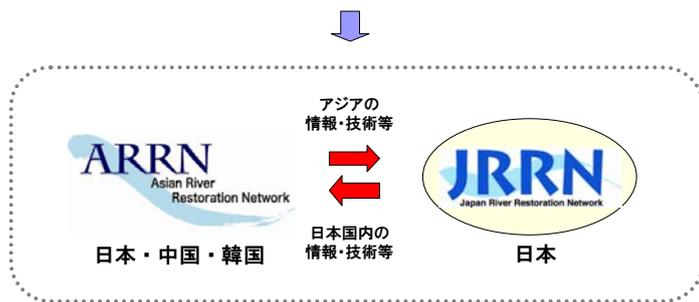


### 【1. 直接的な目的】

アジアにおける様々なセクター（実務者、研究者、行政、市民、NPO）の河川再生意識・技術を高め、実質的な河川再生活動へ波及することを期待

### 【2. 間接的な目的】

ガイドライン作成の作業を共有することで、中国・韓国との連携を深め、国際情報ネットワークを円滑なものにしていくことを期待



## ガイドライン作成の基本的な考え方



### 【コンセプト】

既存ガイドラインの硬いイメージからの脱却し、河川再生全般について理解してもらおう。

### 【作成の方針】

1. ARRNが初めて取りまとめるVer.1として「ガイドライン」の“入門編”と位置づける。
2. ガイドラインの対象者は一般の方とする。
3. 伝えたい内容を写真・画像を通して表現することを基本とし、平易な文章によって補足説明を行う。

P.6参照



## ガイドラインの目次・構成



○ガイドラインは、河川再生に携わるすべての人を対象とした入門編の位置づけとし、河川再生を考える上での必要な事項を網羅させた。



## 4章の方策の概要



○河川再生の取組みとして、自分達でできること、行政機関との連携が必要なこと示した。

○特に、今後は“人材育成”と“合意形成”が重要であると考えている。



方策体系表 (P.25,26参照)

- 4章「方策」の内容を深める上で必要な具体的な技術・施策を整理
- 今後は、方策体系表の精度を高め、ガイドラインの内容を充実させる



方策体系表(案) (1/2)		方策体系表(案) (2/2)	
4. (2) 目的達成を前提としたための調査・研究	<p>Phase 0 調査の目的</p> <p>Phase 1 調査の計画</p> <p>Phase 2 調査の実施</p>	4. (5) 調査結果の整理と水質改善に向けた対応	<p>Phase 0 調査の目的</p> <p>Phase 1 調査の計画</p> <p>Phase 2 調査の実施</p>
4. (3) 目的達成を前提としたための調査・研究	<p>Phase 0 調査の目的</p> <p>Phase 1 調査の計画</p> <p>Phase 2 調査の実施</p>	4. (6) 調査結果の整理と水質改善に向けた対応	<p>Phase 0 調査の目的</p> <p>Phase 1 調査の計画</p> <p>Phase 2 調査の実施</p>
4. (4) 継続可能な調査の実施体制	<p>Phase 0 調査の目的</p> <p>Phase 1 調査の計画</p> <p>Phase 2 調査の実施</p>	4. (7) 目的達成を前提としたための調査・研究	<p>Phase 0 調査の目的</p> <p>Phase 1 調査の計画</p> <p>Phase 2 調査の実施</p>

既存の技術指針一覧 (P.27参照)

- 4章「方策」の内容に対応した既存の技術指針一覧(国内)を整理
- 方策体系表とリンクできるように整理



項目	技術指針
4.12 水質改善を前提とした調査・研究	<p>河川水質調査ガイドライン(河川水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p> <p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p> <p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p> <p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p> <p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p>
4.13 水質改善を前提とした調査・研究	<p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p>
4.14 水質改善を前提とした調査・研究	<p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p>
4.15 水質改善を前提とした調査・研究	<p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p>
4.16 水質改善を前提とした調査・研究	<p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p>
4.17 水質改善を前提とした調査・研究	<p>河川水質調査ガイドライン(湖沼水質調査) 環境省 平成25年(2013)</p>

表 収集整理した既存の国内技術指針

	調査・研究	流域住民の意識形成	合意形成	水質と水量の確保	観水空間の形成	自然環境の再生
1993					1	
1994	1					
1995					2	
1996						1
1997	2			3	2	1
1998						
1999	1	2	1	1	1	1
2000			1			1
2001			1	2		1
2002		2	4			
2003		1	2			1
2004	2	1	1	1	1	2
2005				1	1	
2006	1			2	1	2
2007	1				1	2
2008					2	1
2009	1					
	9	6	10	10	13	13

◇意識形成・合意形成の分野の充実

- ・国内の技術指針を引き続き広く収集
- ・欧米の技術指針の収集

## 今後の展開



### 【現在の活動状況】

- 第5回世界水フォーラム（2009年3月にトルコ・イスタンブールで開催）にて配布。
- 国内の様々なセクターへ配布。

### 【今後】

- しかし、河川環境再生を考える上で必要なことがすべて網羅された訳ではない。
- アジアの自然・社会環境は大局的にみて類似しているものの、各国の河川特性（流域面積、地質、降雨条件、河床勾配など）が異なる。
- 求められている河川再生の段階（水質浄化、親水整備、自然再生）が異なる。



○河川環境改善に取り組む市民、NPOやはもちろんのこと、行政や民間企業で働く実務者、さらには研究者にまで満足して頂ける**実用的な河川再生ガイドライン**となるように引き続き検討する。

○ARRNの技術委員（日中韓）を主体に協議を重ね、段階的にガイドラインの質を高めていく予定。 ※日本の技術委員は白川先生

## 河川再生事例の収集整理の経緯



### 第4回世界水フォーラム（2006年3月にメキシコで開催）分科会提言概要

- 1) 河川環境の再生は、治水や利水と同じく、人類の存続に不可欠。
- 2) 河川環境管理に際しては流域を基本単位で考える。
- 3) アジアに相応しい河川環境再生の方法論を確立することが必要。
- 4) アジアの歴史・文化的土壌として人間活動と自然との調和がある。
- 5) 河川再生に関する優れた事例や専門情報を、実務者・研究者・生態学者・管理者・市民で共有する仕組みが不可欠。
- 6) 類似した自然・社会環境を持つアジアとして、河川再生の技術指針を共有することが緊急の課題。



### 【ARRN活動の柱】

WEBなどを通じた河川再生に関する情報の発信および共有化

## 河川再生事例の収集整理の内容



## 【コンセプト】

- ・河川再生に興味を抱くきっかけを与える情報を提供する。

## 【再生事例情報の選定方法】

- ・既存文献や講演で多く紹介されている事業や受賞歴（土木学会デザイン賞など）のある事業を優先的に抽出し、関係者の議論の末に選定した。

- ・河川再生の代表的なカテゴリーは、以下の6つに設定

- ①川・湖・干潟の自然再生
- ②河川水質の再生
- ③舟運の再生
- ④水路の再生  
(水路とは、生活に係わりの深い中小河川、農業用水路、舟運を目的とした運河、上水路、下水路のこと)
- ⑤歴史文化の再生
- ⑥川とまちの再生

## 河川再生事例の収集整理の内容



## 【ホームページへの掲載方法】

- ・事例の特徴を端的に表現し、興味を高める画像を2枚程度採用。
- ・事例の紹介文は極力簡素なものとする。また、検索しやすいように、受賞歴や事業名などの特徴的なキーワードを必ず含める。
- ・情報を発展させるため、関連情報のリンクを設置。グーグルマップを使って、位置情報を設定。

※事例数：211事例を整理

## 【今後】

- ・段階的に情報をWEBへ掲載
- ・画像の不足の解消
- ・グーグルマップを活用した位置情報の提供

## 境川水系和泉川の再生事例(神奈川県・横浜市瀬谷区)



地蔵原の水辺(左)と里が原の水辺(右)  
(平成20年5月 日中道義撮影)

横浜市瀬谷区・泉区を南北に縦断して流れる和泉川は、「ふるさとの川整備事業」として河川環境の整備が進められ、横浜市の河川環境整備の重点河川にも位置づけられています。河川再生を行うに当たり、1990年代前半には、和泉川流域の動植物に関する基礎調査が行われ、これら自然の生物資源を守りながら、景観、土地利便の計画が行われました。現在、和泉川は都市河川でありながら、水辺の生態系・景観・市民の利用の観点から川の持つ多様性が再生された好事例として、河川再生に取り組み関係者の注目を集めており、2005年に土木学会デザイン賞で最優秀賞に選ばれました。

→和泉川に関する「水辺を楽しむ」の記事はこちら  
地蔵原の水辺 和泉川親水広場

→土木学会デザイン賞2005受賞記事はこちら(土木学会ホームページへリンク)

By JRRN事務局 | カラー自然豊かな河川再生事例まちづくりと一体の河川再生事例